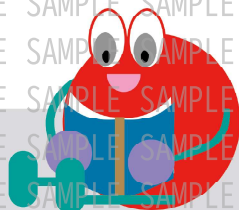
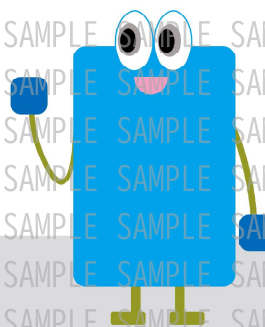


あかミーは えほんを よんでいます。
そこに、あおミーが やって来ました。



「ねえねえ、あかミー。」

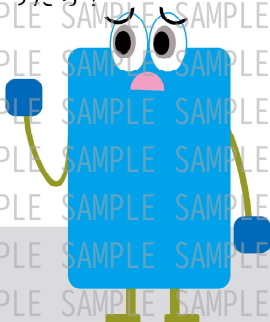
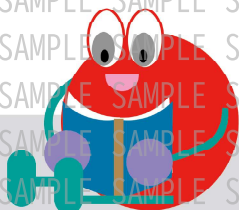
あおミーは、
あかミーに
はなしかけました。



はなしかけられたのに、
あかミーは ぜんぜん おへんじをしません！

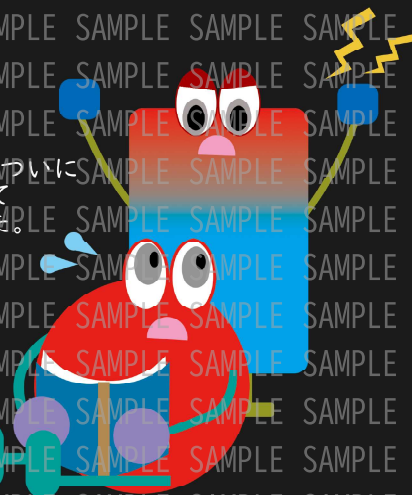
ねえ！ねえねえ！
あかミーったら！

.....。



「もう！どうして
おはなしを きいてくれないの！」

あかミーは、ついに
おこりだして
しまいました。



「あかミーよ。」
「そ、そのこえは！ きいろ ししょう！」

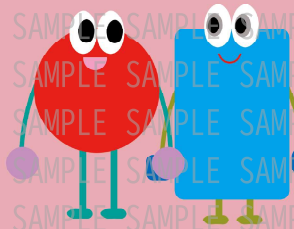


「はなしかけられているのに、
おへんじをしなかったら
あいて は おこってしまうぞ。
どうすればいいか、わかるかな？」

そうだ！はなしかけられたら
やっていることをやめて…



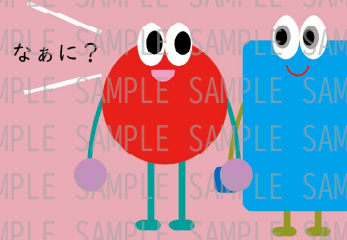
あいての ほうを むいて…



おへんじをして
しっかり おはなしをきくんだ！

なあに？

あのね…



「ねえ、あかミー。」
「なあに？」

あかミーは、やっていることをやめて
ちゃんとあいてをみて、
おへんじしました。



「うわー、すばらしい！」
きいろ ししょう も にっこり。



あいてのはなしをきけると
なかよくあそべて、たのしいね。
よかったね、あかミー。

「いっしょに、こうえんであそぼうよ。」

あかミーのおはなしは、
すてきな おさそいだったのです。

「わーい！ そうしよう！」
あかミーは、およろこび。

